

令和 7 年度研究計画に係る外部事前評価結果

1. 日時： 令和6年 9 月 27日(金) 10:15～15:20

2. 場所： 福岡県工業技術センター

3. 研究課題評価委員（敬称略）

仲 孝幸	公益財団法人 飯塚研究開発機構 テクニカルコーディネーター
藤本 潔	公益財団法人 北九州産業学術推進機構 グリーンイノベーション推進本部 産学連携センター 研究支援グループ統括部長
森 直樹	九州工業大学 次世代軟磁性材料社会実装推進センター 特任教授
寺島 祐二	株式会社 久留米リサーチ・パーク テクニカルコーディネーター
古川 勝彦	九州大学 学術研究・産学官連携本部 教授
高倉 剛	公益財団法人 福岡県産業・科学技術振興財団 産学コーディネータ
植村 聖	国立研究開発法人 産業技術総合研究所九州センター 所長

4. 評価結果： 事前評価 6 課題（外部事前評価結果一覧 参照）

5. 講評(要約)

- 育成研究は、終了後3年以内に次のステップへの移行を見込むが、最近の社会変化は速く、3年の間に多くの展開が求められる。ニーズの変化を的確に掴むことで、研究開発の発展と成果に期待する。
- 全体的に、バラエティーに富んだ、実施する意義が高い課題と思われる。その中で、従来技術を置き換える、原材料を変える等においては、製造プロセスや製品機能の変化を伴うリスクが生じるが、新たな付加価値創出に繋がるチャンスでもある。従来のモノづくり＋アルファを目指す意識が望まれる。
- 当初想定していない他業界や外国への普及を含め、より大きな展開を目指すことや、単独での実施に拘らず、他機関との積極的な連携が重要。また、JIS、ISO 等の規格化に繋がる研究が適切に評価されるようにすることも重要。
- どの課題もニーズを捉えており、社会実装に繋がりをもの、全体的に着実なレベル向上を感じる。さらに、先行事例や先行技術の整理、事業化イメージの具体化が望まれる。規格標準化に関しては誰にメリットがあるかの視点とスタンダードを動かす意識が必要で、ゲノム編集に関しては倫理面での難しさなどがあるが、いずれも外部との連携が重要。

- いずれの課題も産業発展に繋がりうる有用な内容。福岡県が持つ各課題は他県でも同様と思われるが、今回の計画はそれぞれ特徴あるアプローチとなっている。2～3年後目標は時間的に厳しい場合もあるが、成果の社会実装を期待する。
- 全て有用な課題と思われる。留意すべきポイントを加えると、①暗黙知を形式知に変えることで、より良いものが作られる、②儲かるか、市場は広がるかの視点、③実績が計画に沿う開発スピード。また、標準化においては先導するポジションで実施することが重要。
- 強い技術を作り、育て、社会実装を進めることが重要で、そのような意識共有が見受けられる。また、標準化を目指す課題の展開にも期待する。

以上